

平成 27 年度研究助成 研究実績報告書

代表研究者	神戸常磐大学 教授 畑 吉節未
研究テーマ	備えの力を高める災害看護シミュレーションプログラムの開発

<助成研究の要旨>

1 研究課題と目的

相次ぐ大規模災害への対応の経験からの学びを教訓として生かし、災害時の備えに想定外を生まない質の高い医療を提供できるように、今後想定される大規模災害の被害想定も反映し、多様な状況に遭遇しても考え、行動できる力を育むナラティブシナリオを用いた災害看護シミュレーションプログラムの開発を目指している。本研究では、プログラムの核となる現実性の高いナラティブシナリオ等の教材作成と、災害看護シミュレーションプログラムの試行と効果性の検討をもとに、シナリオの妥当性の検討等を図ることを目的とする。

2 研究方法

看護師 40 名、医師等の医療職 20 名による災害看護実践行動に関する語りをもとに、災害発生時から時間の経過に沿って生じる看護師に固有の課題、または他の医療職とともに直面する医療ニーズや課題、困難をもとに、医療機関を場とする時系列に構成したシミュレーションシナリオを作成、医療機関の看護師を対象に試行を行うとともに、専門家に意見を求めシナリオの妥当性の検討を行う。その上で、シナリオを用いた教育・訓練の展開方法、成果の評価方法等の運用方針を分かりやすくまとめ視覚化した教育・訓練用の教材を作成する。

3 研究成果の概要

1) シミュレーションシナリオの作成

- 災害看護実践行動をとった看護師 40 名（看護管理者、病棟・外来看護師、支援看護師で構成）と、災害時に看護師とともに活動した医師をはじめとする医療専門職 20 名（医師、PT/OT、薬剤師）の合計 60 名から個別に聴取し構築したナラティブデータベースを用い、発災直後から急性期・亜急性期までの災害サイクルを対象に、看護部の活動を想定した概ね 3 日間のタイムライン・シナリオを作成した。
- シナリオは今後、多様な医療機関で活用されることを想定して、シナリオの個別性が他の医療機関への適用を阻害しないように、コアとなるシナリオ（以下「コア・シナリオ」と呼ぶ。）を作成した。コア・シナリオは、「そのとき」、「揺れの直後」、「本部が立ち上がる」、「病棟では」、「外来診療部（救急外来）では」、「外来診療部に生じる変化」、「ようやく朝が明ける」、「3 日目」の 8 部で構成した。また、コア・シナリオの活用に伴う留意点等を盛り込んだ運用指針等を作成した。

2) シミュレーションの試行と妥当性の検討

- 作成したコア・シナリオの妥当性を検討するために、阪神・淡路大震災の被災経験を持つ兵庫県内 A 病院で試行を行い、参加した当該病院の看護管理者、看護部各部門の責任者とリーダー役を担うスタッフの研究協力のもと評価を行った。シミュレーション後の振り返りの中では、単に災害の備えの現状に対して危機感を持つに留まらず、行動レベルでの備えの重要性に気づくなど、一定の妥当性が推察された。
- また、大規模災害の被災地で災害看護実践行動を行った看護管理者 5 名の専門家と、病院建設や病院の事業継続計画の作成・運用支援を行う建設会社 1 社 2 名の協力によりシナリオの妥当性の検討を行った。シナリオの詳細では「不足している部分」、「強化すべき部分」、運用方法では「個別病院に合った現実感の高いシナリオへのカスタマイズ方法」、「多様な災害経験を生かして質的改善を図る工夫」等の指摘を頂いた。得られた意見をもとに、コア・シナリオ及び運用方針等の改善を行った。

3) シミュレーションの視覚化と教材の作成

- シミュレーション全体の概要、作成したコア・シナリオの「ねらい」、「学習目標」、学び取るべき「学習ポイント」、個別病院に合った現場感の高いシナリオへのカスタマイズ方法も含め、災害看護シミュレーションプログラムの展開方法を教材化した。併せて、開発プロセスの個々の段階を記録し視覚化を図った。

4 今後の課題

- 今回、作成したシナリオを用いて多様な状況に遭遇しても対応できる個人と組織の備えを高める取組みを進めることに併せて、在宅のハイリスク療養者に関する対応も想定したシナリオへの拡大、学習者の新しいニーズである e-Learning プログラムの開発等に着手したいと考えている。